

はまなす句会（七月二十七日）（第百十三回）

七月の草の匂いのただならぬ

圭二

凌霄のわあっと伸びて空めざす

菊枝

野仕事にたまの涼風頼み綱

由美子

花芙蓉そよ吹く風に人ささそう

久子

瓜きざむ今日一日を安堵して

克司

ときめきの色はいつから凌霄花

玲子

すっきりと濃淡きわみ青田風

則子

